

令和3年初戦 白星飾れず。

SBC 0 対 6 某MS

令和3年5月1日、東邦スタジアムにて、SBC対某MSの練習試合が行われた。令和3年「初」の練習試合となったこの試合。初回、先取点の最大のチャンス逃すと、気が付けばスコアボードには「0」（ゼロ）の文字が並んだ。随所に得点圏にランナーを進めるものの、あと1本が出ず、床島・富永の好投もむなしく、苦い敗戦となってしまった。

復帰戦での活躍 大下

約3年ぶりの復帰戦となったこの試合。大下は見事に監督の期待に応えてみせた。第1打席目は幻の先取点となる2塁打を打ち、第2打席目にもヒットを放った。第3打席目は惜しくもアウトになったものの、大きい当たりであった。守備ではショートとセンターを守った。特に相手の2塁打を阻む、センターから2塁へのレーザービームは目を見張るものがあった。

2安打の活躍 富永

「頑張れー！ー！」
次の瞬間、ボールは右中間へ飛んで行った。野球のオフシーズンでも出張があるうとも、トレーニングを欠かさないこの男。今回の試合もその準備が活きる結果となった。
ご家族が応援に来た直後の第2打席目。打ったボールは右中間に飛び、誰が見ても会心のヒットであった。
ご家族の前で打てるカッコ良さ。持っている男はやはり違う。

どうした！？ 押川

まずは前述、「幻の先取点」について書く。初回、ランナー1塁（押川）、バッターは大下。大下が2塁打を打ち、幸先の良い先取点・・・になるはずだった。1塁から激走した押川は、ホームベース約2M手前の所で謎のヘッドスライディング（足がもつれたようだ）。そのまま起き上がれずアウトになってしまった。その後、ヘッドスライディングで負傷してしまった押川は、本来の調子を取り戻せず、内角へのボールに対し死球をアピールしたり、ズボンの際どい部分が破けるといった事件を起こす等、らしくない活躍ばかりが目立ってしまった。

今回の総



何を言おうとも初回の攻撃こそが今回の試合を物語っている。ランナーを出しつつも、点が入らない。準備不足（運動不足）は言うまでもない。

点が入らなければ勝つことはできない。今回の試合では30代が中心となっていたが、盗塁は全く無かった。「走れない」はまだ言い訳にはできない。次回の試合では機動力を活かす等、貪欲に点を取りに行く姿勢を我々に見せて貰いたい。



打順	守備	氏名	打席	安打数	打点	四死球
1	二	西田	4	2	0	1
2	一	興梠	3	0	0	0
3	捕	押川	3	0	0	1
4	遊	大下	3	2	0	0
5	投	床島	3	0	0	0
6	中	富永	3	2	0	0
7	三	(助っ人1)	3	1	0	1
8	左	(助っ人2)	3	0	0	0
9	右	久保野	2	0	0	0
		落合	1	0	0	0
		木原	1	0	0	0

【試合結果】

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
SBC	0	0	0	0	0	0	0	0
某MS	0	2	0	4	0	0	0	6

【投手成績】

* 床島⇒富永

氏名	投球回	奪三振	失点
床島	3	0	2
富永	3	2	4

【☆マネージャー大・大・大募集中☆】

○仕事内容

試合風景の写真撮り・簡単な得点や安打数の記載

* 野球のルールが分からない方でも記入できる簡単な作業です。